

間質性肺炎合併肺癌に関する臨床データの研究利用に関する後方視的研究

研究対象と概要：

国立がん研究センター中央病院呼吸器内科において、2012年1月から2013年12月の間に間質性肺炎合併肺癌と診断された患者さんの臨床データを収集分析し、この疾患の有効な治療法を検索します。

研究の意義：

間質性肺炎は徐々に肺活量が減少し呼吸困難をきたす慢性疾患ですが、しばしば原発性肺癌が合併します。間質性肺炎を合併しない肺癌患者さんと比較して、抗がん剤などの治療では使用禁忌（投与してはいけない）とされる薬剤もあります。手術後や抗がん剤治療、放射線療法中に間質性肺炎が急性増悪を起こし、重篤な合併症になる場合があります。このように間質性肺炎に合併する肺癌の病状は複雑で、標準的治療がまだ確立していません。本研究では、当院ならびに全国の施設が協力し、より多くの患者さんの情報により、詳細な検討を行える意義があります。

研究の目的：

間質性肺炎合併肺癌と診断した患者さんの臨床データを収集分析し、この疾患の有効な治療法を検索することを目的としています。

研究の方法：

本研究は、診療録の情報を収集、解析することで実施されます。2012年1月から2013年12月まで間質性肺炎合併肺癌と診断された患者さんの臨床データ（喫煙歴、血液データ、呼吸機能検査、実施された治療内容、その効果判定など）を収集分析します。

個人情報に関する配慮：

患者さんのデータ収集作業は国立がん研究センター中央病院呼吸器内科医師が担当します。集められた診療情報は、個人情報 that 特定できないように研究用の番号を付与し、漏洩のない環境で厳重に管理されます。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

堀之内秀仁（研究責任者）

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

国立がん研究センター中央病院呼吸器内科

電話：03-3542-2511 / FAX：03-3542-3815